

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回吉川市商工対策審議会
開 催 日 時	令和4年12月21日(水) 午前10時00分から 午前11時03分まで
開 催 場 所	吉川市役所301会議室
出席委員(者)氏名	【商工対策審議会委員】 大泉 将平、松本 美代子、小林 政夫、中嶋 通治、牧田 昌己、岡見 春美、米元 秋枝、鈴木 真理、山本 修史
欠席委員(者)氏名	恒川 博
担当課職員職氏名	産業振興部 商工課 課長 染谷 憲市 商工課 消費労政係長 會田 奈穂子 商工課 商工観光係長 東原 拓哉
会議次第と会議の公開又は非公開の別	第1回吉川市商工対策審議会 1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 委員委嘱 4. 議事 (1) 新型コロナウイルス感染症対応経済対策について (2) 商工観光及び消費行政・労働行政の取組みについて ①商工観光の取組みについて ②消費行政・労働行政の取組みについて 5. その他 6. 閉 会 [公開・非公開] 公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	—
傍聴者の数	0人
会議資料の名称	・次第 ・傍聴要領 ・委員名簿 ・資料1 新型コロナウイルス感染症の対応について ・資料2 商工観光の取組みについて ・資料3 消費行政・労働行政の取組みについて ・資料4 まちづくり出前講座 ・資料5 令和4年度吉川市合同就職面接会開催報告

会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	松本 美代子、岡見 春美
その他の必要事項	
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
会長	1. 開会 2. あいさつ 師走のお忙しい中、本審議会にご参集いただき感謝する。只今より吉川市商工対策審議会を開催する。
事務局	3. 委員委嘱 吉川市議会議員常任委員会等委員の改選に伴い新たに中嶋委員を委嘱
事務局	4. 議事 (1) 新型コロナウイルス感染症対応経済対策について 事務局より資料1を用いて報告
委員	【意見・質疑等】 原油等価格高騰支援金については、現状の燃料や電気等の値上がりに対応するための迅速かつ必要な支援と感じる。
事務局	制度の設計にあたっては、様々な業種の事業者から意見聴取を行い、特に燃料価格等高騰の影響が大きいと判断し実施するものである。また、商工課では運送系及び商工業者を対象に、農政課では農業者を対象とする支援金を創設している。
委員	プレミアム付商品券に関して、小売店舗従事者という立場から意見すると、商品券購入者が、券の使い方や使用可能店舗の情報というのを把握できていないのではと感じる。そのような問い合わせが多いため、市からは購入者に対し店舗一覧等を送付しているのか確認したい。
事務局	商品券購入者に対しては、利用可能店舗一覧を送付している。その後も随時、店舗の追加があり、専用のサイトで店舗を検索できるシステムとなっている。また、電話による問い合わせにも丁寧に対応できるよう、専用の問合せ窓口を設置し、土日も対応しているところである。
委員	今回、初めて導入された電子券については、使い方に関する問い合わせが特に多かったと感じている。
事務局	電子券については、今回初めて導入したものである。キャッシュレス化を推進していく中で、事業者、消費者双方が少しでも慣れていただくことを想定している。電子決済を既に導入済みの事業者は抵抗なく導入いただいた一方で、未導入の事業者の中には、新たに導入することへのハードルの高さを懸念する声も上がって

	<p>いる。また、大手事業者では、専用のレジや端末となっており、臨時的な電子決済を反映させることが難しいということであった。</p>
委員	<p>商品券が使える店舗は、店舗の外から一目で分かるよう周知されているのか。</p>
事務局	<p>各店舗には、商品券が使える店舗であることを示すポスターやステッカーを配布し、希望店舗には無償でのぼり旗を送付している。</p>
委員	<p>一覧表を拝見したが、もう少し字が大きいと良いと感じる。また、店舗一覧が使える商品券の種類でまとめられた方が分かりやすいのではないかと思う。</p>
事務局	<p>使える商品券の種類で整理していくことも考えていたが、住所を基準にした方が市民には分かりやすいと考え作製したものである。字の大きさも含め貴重なご意見であり、今後の様々な周知の際に参考とさせていただきたい。</p>
委員	<p>キャッシュレス化を見据えて電子券を購入し実際に使用してみたが、そんなに難しいものではなかったと感じている。電子券の割合は、どの程度であったのか確認したい。</p>
事務局	<p>ただいまのご意見は大変貴重なものと感じる。また、割合については、当初予定数は紙券が約8割、電子券が約2割であったが、実際の販売数は、紙券が約9割、電子券が約1割という状況である。</p>
事務局	<p>(2) 商工観光及び消費行政・労働行政の取組みについて</p> <p>①商工観光の取組みについて 事務局より資料2を用いて報告</p> <p>②消費行政・労働行政の取組みについて 事務局より資料3、4、5を用いて報告</p> <p>【意見・質疑等】</p>
委員	<p>最近、市外での何気ない会話の中で、吉川市から来た旨を伝えると、「なまずの里」ですね。という会話に繋がり、認知度の向上を実感することができた。また、北斗晶さんの名前が出てくることが多く、何か観光大使という形で一緒にPRしていくことはできないものなのか確認したい。</p>
事務局	<p>現段階においては、芸能人等を観光大使とする考えはない。また、先ほど、委員から、市外での認知度が少しずつ向上していると実感できるという点は大変喜ばしいことであり、今後も様々な取組みや手法を用いて、全国に「なまずの里吉川」を発信していきたいと考えている。</p>
委員	<p>「なまずサミット」の開催については、ぜひ吉川で開催いただ</p>

<p>委員 事務局</p>	<p>ければ幸いである。 なまずサミットはいつ頃の開催を予定しているのか。 本来であれば、7月2日の「なまずの日」前後が望ましいと感じるが、イベントの規模や他のイベント等の開催状況も加味して、吉川市で10月から11月あたりで開催出来ればと考えている。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>なまずの日というのがあるのか。 7月2日で7、0、2でなまずの日となっている。日本記念日協会に正式に認められた記念日である。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>市外の方と話をする際に、「普段なまずを食しているのか。」と聞かれることがある。その際には、普段はなかなか食していない旨を伝えているが、なまずの里というからには、月に1度など、もう少し、普段の食事の中で、「なまず」を取り入れていくことができないものか。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>貴重なご意見である。なまずサミット参加自治体の中にも、食文化や信仰としてのなまずなどがある。吉川の場合は、例えば、市境には、なまずの里への入り口としての看板が設置され、なまずのモニュメント、ポストがあり、なまずの食文化のみならず、様々な取組みの組み合わせによるものと感じている。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>なまず料理については、昔は、家庭で調理され食されてきた文化があったが、今は、個人宅で食すことは少ないと思う。だからこそ、そのような食文化を後世に継承できるよう、料理店で提供し、多くの方に食していただいているところである。また、駅前のラッピーランドでも、金曜日になまずのたたきを提供しており、気軽に食すことが可能である。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>市外からの方を招く際には、なまず料理を食べてほしいと感じている。そのためには、私たちが食していないとおすすめが出来ない。何か取組みとして、なまずの料理コンテストなどを行ってはどうか。新たな、なまず料理が浸透していくことも、なまず料理を継承していくことに繋がるのではないか。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>以前、吉川で開催したなまずサミットの中でグルメコンテストを開催し、そこで、開発されたなまず料理は、現在も市内にある中華料理屋で提供されている。また、居酒屋、寿司屋、料亭、さらには、委員からも先ほどあったようにラッピーランドで提供されている。市では、グルメマップを作成し、様々な機会を捉え、周知しているが、ご指摘も踏まえ引き続き周知に努めていきたい。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>なまずは、スーパーでも売っているものなのか。 スーパーでは売っていないが、市内にある2か所の養殖場では、加工済みも含めて購入することができる。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど、グルメコンテストの話があったが、以前、商工会の青年部がグルメコンテストを開催したことがあり、現在もそのレシ</p>

事務局	<p>ピは保管している。</p> <p>市内小中学校において、なまずの日には、給食を通じてなまず料理を提供している。この取り組みには、市内飲食店にもご協力いただき、この給食を通じて、なまず料理に関する子どもからの様々な質問にお答えいただいている。</p>
委員	<p>消費者啓発活動については、大変重要であり、自身も法教育として子ども向けに、主に、18歳成年におけるトラブル防止という視点で取り組んでいる。本日、このような取り組みを知ったので、ぜひ連携して取り組んでいきたいと感じている。必要があれば、お声がけいただきたい。</p>
副会長	<p>普段思うことは、若い世代は、人と話すことがとても苦手で、メールやLINE等が主流の文化となっている。また、先ほどの商品券をはじめ、若い世代にはどれだけ市の取り組みが浸透しているのか。広報紙を見るのも高齢者、支援策を活用するのも高齢者、若い世代には、違う媒体で周知するなどして、伝えていかなければと常を感じている。そのような中で、国では、これまでの、電話からLINEによる相談体制を構築するなど様々な取り組みを進めているが、件数は少ない状況である。若い世代に対しどのようなアプローチが有効なのか。この部分は非常に難しい問題と感じている。</p>
事務局	<p>市でも、情報発信に関しては大変苦慮している状況である。例えば、観光協会が発信するInstagram、市広報担当が発信するTwitterなどがあり、これらの媒体を通じ、これまで届かなかった層に対する新たなアプローチとなっている。しかし、まだまだ、発信しきれていないというのが現状である。</p>
委員	<p>今の高校生、大学生の情報収集はSNSが大半である。もっと、これらの発信を強化していくことが重要と感じる。</p>
委員	<p>行政という立場上難しいかもしれないが、なまりん、なま坊、ねぎ夫など様々なキャラクターを用いて、少し面白く情報を発信出来たらより若い世代にも届くのでは無いかと感じる。</p>
事務局	<p>若い世代への発信については、先日、市内事業者と話をする機会があり、その事業者では、TikTokを活用し、10秒で製造工程や社内の雰囲気発信しているとのことであった。動画を見た方からは、入社希望の問い合わせがあるなど、若い世代に対してはとても効果があるという話であった。</p>
5. その他	<p>特になし</p>
6. 閉会	<p></p>
副会長	<p>本日も分かりやすい資料のもと、委員からも様々な視点の貴重なご意見をいただくことができたと感じている。事務局、委員の</p>

	皆様お疲れ様でした。これをもって本会議を閉会とする。
--	----------------------------

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和4年12月28日

署名委員 松本 美代子（自署）

署名委員 岡見 春美（自署）